

# さいたま市教組新聞

編集・発行/  
さいたま市  
教職員組合  
〒330-0843  
さいたま市大宮区  
吉敷町4-93-5  
大宮教育会館2F  
TEL 641-6763  
FAX 648-3567  
2020. 4. 16(木)  
No. 256

## 委員会は現場の声を反映した施策を！

### 休校措置に関する

### 突然の教育長発信に強く抗議し、緊急に申し入れを行う

## 現場に大きな混乱！ 行政への不信感募る

新型コロナウイルスに関わり、3月の授業から始まり、卒業式や終式、そして始業式や入学式が実施するかどうかも含めて、市教委の発信が二転三転しました。刻一刻と状況が変化していった中では、やむを得ない側面はあったと思います。

しかしながら、今月7日にYou Tube (ユーチューブ) による教育長の発信は、学校現場に大きな混乱と行政に対する不信感を募らせました。その情報は学校現場に事前に知らされることなく、突然に市民に発信されました。直接現場の教師が取り組む内容であるにもかかわらず、私たち教職員には知らされず、またしても市民からの情報提供で初めて内容

を知るといふ事態となりました。そして、「先生、学校でパソコンを貸してくれるのですか」とか、「夏休みがなくなってしまうのですか」といった内容の問い合わせや話題が実際に起こっています。

## 休業中の子どもたちへの 学習機会の保障も 大切な課題

なぜ、教育長はそれぞれの学校の状況を考えただけなのでしょう。なぜ、私たち現場の教職員を信頼していただけないのでしょうか。私たち同様、管理職も困惑しているようです。

私たちは決して教育行政や学校からの休業中の過ごし方の提案について、家庭に発信することを否定しているわけではありませぬ。この未曾有の事態においても、子どもたちや家族、教職員のいのちと健康をまず優先して守ることを願っています。その上で空白となつ

てしまった学習機会についても保障していくことは、混乱した世の中であっても教育を保障していく大切な使命が私たちにあると考えています。だからこそ今の状況をつかみ、それぞれの地域、学校の実態に即した学習内容を、適切なタイミングで提案していくことが大事です。

## 「さいたま市web学習センター」『スタディエッセンス』に関する問題点

これに乗じて、4月10日に市内全校の校長と情報担当者が集められ、「さいたま市web学習コンテンツ」『スタディエッセンス』なるものの説明が、一切の質問を受け付けることなく行われました。「これを機に、市立学校全ての児童生徒の学びをさらに深めるため、web学習コンテンツを整備することといたしました。」と説明されました。これは一見休校中の児童生徒の学習保障

を行うかのようにありましたが、「休校中の学習保障でなく、ICT教育推奨の取組」と口頭で説明され、「学びをさらに深めるための動画を、全学年すべての単元15分で作る」というものでした。すでに、学校それぞれで休校中の学習を示しているところも多く、「こんな時に、なんでこんな指示をされるのか。」と管理職も含めて、それぞれの職場で困惑の声が上がっています。

## 私たち教職員に対する いのちと健康を守る配慮も 要求

いちばんの課題は、この新型コロナウイルスから子どもたちや教職員のいのちと健康を守るために実施されるであろう休校と教職員の在宅勤務であるはずですが、なににコンテンツの作成やメッセージの発信は、結局規定以上の出勤をせざるを得なかったり、在宅勤務の本来的意図を逸脱するのではないかという不安の声が寄せられています。

私たちは、今回の教育長による現場不在の、しかも教職員への健康面の配慮もない突然の発信に強く抗議し、緊急の申し入れを行いました。

今年度の新しい執行部

よろしく  
お願い  
します

- 執行委員長 大澤 博 (大原中)
- 執行副委員長 金井裕子 (尾間木小)
- 書記長 横川雅子 (三室中)
- 書記次長 詫間恵里子 (植水小)
- 執行委員 稲葉達也 (日進小)
- 清水和宏 (植竹中)
- 福田重夫 (大宮東小)
- 川上 勤 (新和小)
- 長島大志 (指扇小)
- 菊地 肇 (大門小)
- 埼教組 中央執行委員 湧井一成 (宮前小)
- さいたま地区労 副議長 浦本和隆 (大宮西小)